

2023年5月12日

## 「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」中間とりまとめに対する KGI/KPIの達成状況について

標題のKGI/KPIについては2022年10月に策定し、その達成状況を決算時期に合わせ公表することとしておりましたが、このたび、2022年度実績及び2023年度取組みについて別紙のとおりとりまとめましたのでお知らせします。

# KGI/KPI（2022年10月設定）の 達成状況について

【2022年度実績・2023年度取組み】

2023年5月12日  
日本貨物鉄道株式会社

## KGI（重要目標達成指標）

2025年度コンテナ輸送トンキロ 目標

2022年度コンテナ輸送トンキロ 実績

2023年度コンテナ輸送トンキロ 目標

- ・チャレンジ目標 209億トン
- ・必達目標 196億トン

164.6億トン

175.8億トン

**視点1：貨物鉄道の輸送モードとしての競争力強化に向けた課題**

## KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度  
目標

 2022年度  
実績

 2023年度  
目標

2023年度主な取組内容

既存の輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み

- ・チャレンジ目標  
積載率  
全日平均  
81.2%
- ・必達目標  
積載率  
全日平均  
76.5%

 積載率  
全日平均  
70.1%

 積載率  
全日平均  
72.3%

- 企業活動の変化（生產品目変更・拠点変更・リードタイム変更等）や潜在ニーズを把握した上での的確な利用提案、新規案件の創出
- マーケティングデータに基づく潜在顧客のターゲット化による新規顧客の取り込み。
- 2024年問題に対するモーダルシフトニーズの取り込み
- 輸送区間・列車・曜日等に応じた柔軟な運賃設定
- 既存輸送力を最大限活用することによる積載率向上
- 社員一人一人の創意と工夫を引き出すための分かりやすい指標づくり

これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応

- ・定温コンテナ輸送  
11.2%増  
(対2020年度比)

 $\Delta 1.1\%$   
(対2020年度比)

 $+3.7\%$   
(対2020年度比)

- コンテナを保有する事業者との共同提案の推進
- 保有事業者側でのコンテナ増備の検討
- コンテナのラウンドユース、異業種マッチングへの取組み

- ・31ftコンテナ輸送  
11.2%増  
(対2020年度比)

 $+5.3\%$   
(対2020年度比)

 $+7.3\%$   
(対2020年度比)

- 駅での中継作業等を活用した輸送区間の拡大
- メーカーや物流会社へのコンテナ保有の提案
- ブロックトレインの利用拡大
- コンテナのラウンドマッチング、新規提案
- 集配車の大型コンテナ積載可能シャーシへの切り替え促進策の検討

- ・中距離帯輸送  
23.8%増  
(対2020年度比)

 $+2.9\%$   
(対2020年度比)

 $+3.9\%$   
(対2020年度比)

- 2024年春ダイヤ改正に向けて、400～600km帯をターゲットとした需要把握と商品づくり

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2022年度 実績	2023年度 目標	2023年度主な取組内容
これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5tに満たない小口貨物混載・共同輸送の定期ルート設定</li> <li>・積替ステーション設置 22駅</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SIP地域物流共同プラットフォームへの参画による中ロット貨物の鉄道誘致</li> <li>● ノンアセット型物流事業者との協働とグループ会社アセット活用によるサービス領域拡大</li> </ul>
国際海上コンテナの海陸一貫輸送の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送ニーズ、事業性の確認</li> <li>・事業性判断後低床貨車発注</li> </ul>	—	輸送ニーズ、事業性の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国土交通省港湾局と連携したニーズの把握</li> <li>● 実証実験に向けた調整</li> </ul>
災害時をはじめとする輸送障害への対策強化	BCP対策会議新設 5都道府県以上	—	BCP対策会議新設 1自治体以上	● 山陽線における官民一体となった検討の場の設置
	災害時山陽線カバー率 50% (2020年度比)	幹線鉄道等活性化事業費補助の対象事業として採択	—	● 山陽線新南陽駅における災害時代行カバー率向上に向けた駅改良工事の設計・協議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪重測定装置</li> <li>・トラックスケールの整備 84駅整備</li> </ul>	8駅	23駅	● 輪重測定装置・トラックスケール等の設置
災害等輸送発生時の対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの改善</li> </ul>	—	改善した内容の試行開始	● 必要かつ分かりやすい情報を円滑に提供できるホームページへの改善
新たな社会的要請への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊との定期的な意見交換</li> </ul>	定期的な意見交換 (2回実施)	定期的な意見交換 (4回実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自衛隊所有の車両、機材輸送に適合する輸送体系に関する打合せ</li> <li>● 機材輸送や演習用資材輸送に向けた輸送区間、積御等に関する打合せ</li> </ul>
新幹線による貨物輸送拡大に向けた検討の具体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が中心となった検討会への参画</li> <li>・貨物新幹線車両の設計検討</li> </ul>	関係者による検討会への参加	大容量貨物新幹線車両の基本仕様検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係者による検討会の継続的参画</li> <li>● 大容量貨物新幹線車両の設計に向けた検討の深度化</li> </ul>

## 視点2：貨物鉄道と他モードの連携に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2022年度 実績	2023年度 目標	2023年度主な取組内容
誰でもいつでも利用できる体制づくり	・物流MaaS（リストアップ予約システム）基本計画の策定	－	ホームページ等の案内方法改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページ等WEB上の仕組みの案内方法改善、問い合わせしやすいインターフェースに改善</li> <li>● 発着地等条件入力により、輸送ルート、リードタイム、輸送余力等が検索できる画面の提供</li> </ul>
パレチゼーションの推進	・パレットデポ設置 22駅	－	10駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ会社等と連携した既存施設活用によるパレットデポ設置</li> </ul>
貨物駅の高度利用・貨物鉄道のスマート化の推進	・レールゲートからの発送 3%増/年	△4% (対2021年度比)	3%増	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各地レールゲート入居テナントの鉄道利用提案強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・立地しているエリアを軸とした広域物流センターとしての活用提案</li> <li>・レールゲート相互間、各都市の駅隣接倉庫（グループ会社）との連携物流提案</li> </ul> </li> </ul>
	・コンテナ3段積によるキャパシティ拡大 12ft換算900個分増（@1箇所100個×9箇所（年3箇所））	－	3駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャパシティ拡大の候補駅選定（検討地域：首都圏、中京、関西、中国、九州）</li> <li>● コンテナ多段積の実施に向けた課題への対応</li> </ul>

## 視点3：社会・荷主の意識改革に向けた課題

	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2022年度 実績	2023年度 目標	2023年度主な取組内容
貨物鉄道輸送の特性に関する認知度向上	・CO2概算排出量削減情報提供サービス導入	－	ホームページ等の案内方法改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発着地等条件入力により、CO2削減量を簡単に検索できるサービスの提供</li> </ul>
貨物鉄道利用促進の制度設定	・荷主に対するインセンティブ案の確定	－	貨物鉄道のCO2排出量の精緻化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄道総研と実施している「貨物列車の消費エネルギー概算手法の開発」を参考にした貨物鉄道におけるCO2排出量算定の精緻化</li> </ul>